

財政収支(2018年1-11月)

(1) 2018年1-11月における歳入は前年同期比20.2%増、税収は同17.7%増。

(2) 歳出は前年同期比24.0%増。

(3) 財政収支は545億リラの赤字(前年同期比106.0%赤字増)。プライマリーバランスは173億リラの黒字(前年同期は288億リラの黒字)。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	574,597	690,818	20.2%
税収	489,281	575,785	17.7%
所得税	101,622	126,543	24.5%
法人税	52,325	77,363	47.9%
付加価値税(国内及び輸入)	139,776	165,841	18.6%
特別消費税	124,983	122,065	▲2.3%
その他税収	70,575	83,973	19.0%
税外収入等	85,316	115,033	34.8%
歳出(b)	601,080	745,361	24.0%
人件費	151,058	186,508	23.5%
物品及びサービスの購入	52,773	60,514	14.7%
経常移転	243,830	293,549	20.4%
資本支出	52,053	68,477	31.6%
支払利子(c)	55,279	71,880	30.0%
その他歳出	46,087	64,433	39.8%
財政収支(a-b)	▲ 26,484	▲ 54,544	▲ 106.0%
基礎的財政収支(a-(b-c))	28,796	17,336	▲ 39.8%

経常収支(2018年1-10月)

(1) 2018年1-10月の経常収支は、前年同期比22.6%赤字幅縮小し、271.7億ドルの赤字。10月単月では27.7億ドルの黒字(3ヶ月連続)となった。

(2) 2018年1-10月の貿易収支は前年同期比13.8%赤字幅縮小、旅行収支は同17.4%黒字幅拡大。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

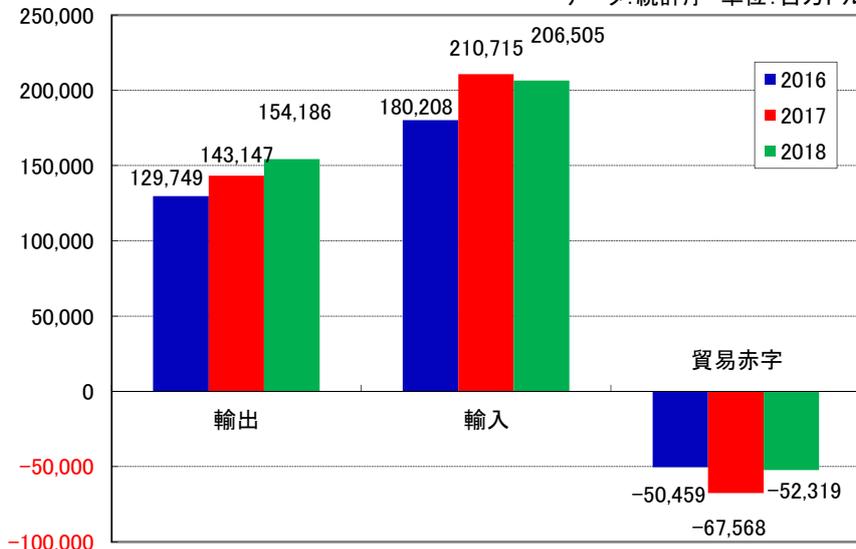
内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲ 35,129	▲ 27,174	22.6%
貿易収支(物品)	▲ 46,630	▲ 40,186	13.8%
サービス収支	18,166	22,093	21.6%
旅行収支	15,857	18,617	17.4%
その他サービス収支	2,309	3,476	50.5%
第1次所得収支	▲ 8,829	▲ 9,578	▲ 8.5%
第2次所得収支	2,164	497	▲ 77.0%
労働者送金	358	325	▲ 9.2%
その他第2次所得収支	1,806	172	▲ 90.5%
資本移転等収支	17	60	252.9%
金融収支	▲ 35,201	▲ 8,672	75.4%
直接投資	▲ 7,418	▲ 6,032	18.7%
証券投資	▲ 25,299	3,203	112.7%
その他投資	▲ 6,998	9,330	233.3%
外貨準備	4,514	▲ 15,173	▲ 436.1%
誤差脱漏	▲ 89	18,442	20821.3%

貿易収支(2018年1-11月)

(1) 2018年1-11月の輸出額は1,542億ドル(前年同期比7.7%増)、輸入額は2,065億ドル(同2.0%減)となり、この結果、貿易収支は523億ドルの赤字(同22.6%赤字縮小)となった。

(2) 2018年1-11月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は50.3%(前年同期は47.1%)、輸入額におけるEUからの輸入の占める割合は36.3%(同36.3%)となっている。

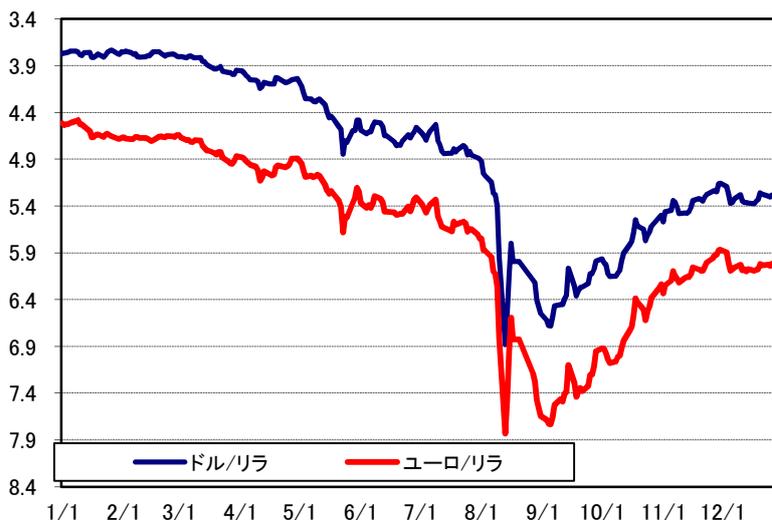
データ:統計庁 単位:百万ドル



為替(12月)

12月のリラ相場は、局地的な下振れはあったものの、対米ドルで1ドル5.2リラ台後半から5.3リラ台後半のレンジで安定的に推移。31日時点で1ドル=5.281リラ、1ユーロ=6.0422リラ。

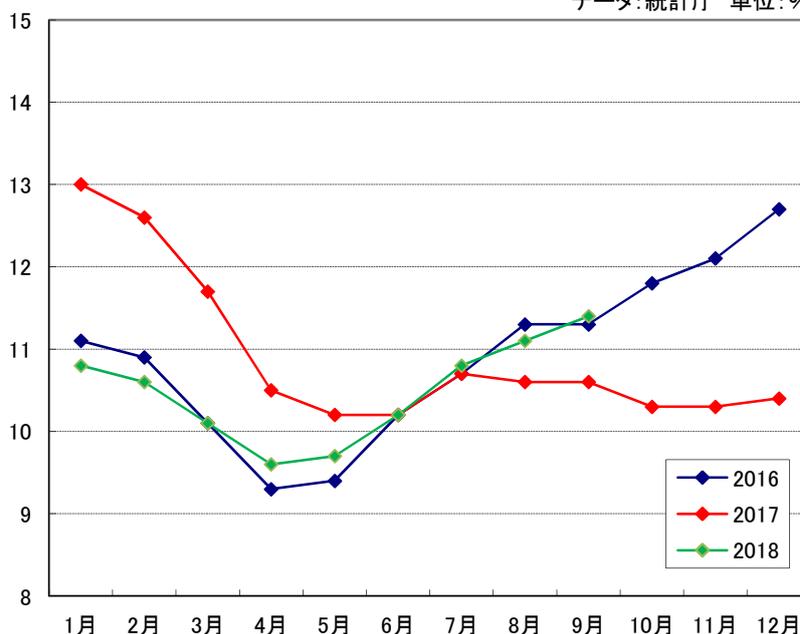
データ:中央銀行 単位:1ドル=リラ、1ユーロ=リラ



失業率(9月)

(1)2018年9月の失業率は11.4%。前年同月から0.8ポイント、前月から0.3ポイントの上昇。
 (2)労働力人口は3,281万人、就労者数は2,906万人、失業者数は375万人。
 (3)男性の失業率は9.7%、女性は15.0%。若年層(15-24歳)の失業率は21.6%となっている。

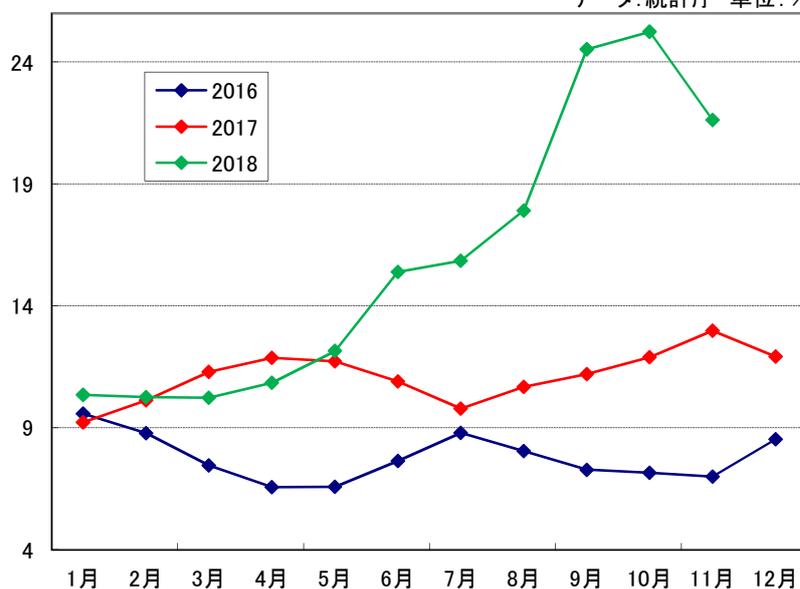
データ:統計庁 単位:%



物価上昇率(11月)

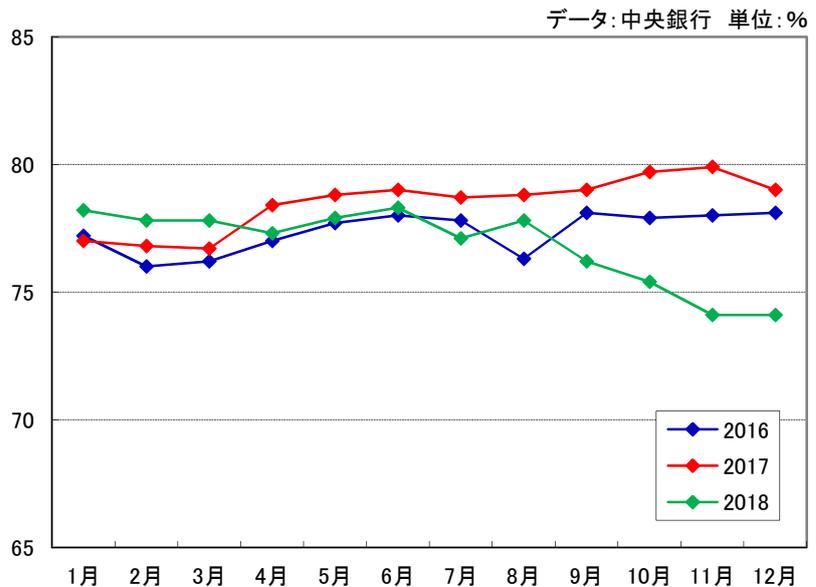
(1)2018年11月の消費者物価は前月比1.44%増、前年同月比21.62%増。
 (2)項目別では、前月比で最も上昇したのは、衣類で2.37%増、前年同月比で最も上昇したのは、家具・家庭用機器で32.73%増。
 (3)中銀の2018年末のインフレ予測(10/31時点)は前年同月比23.5%増。
 (4)国内生産者物価指数は前月比2.53%減、前年同月比38.54%増となった。

データ:統計庁 単位:%



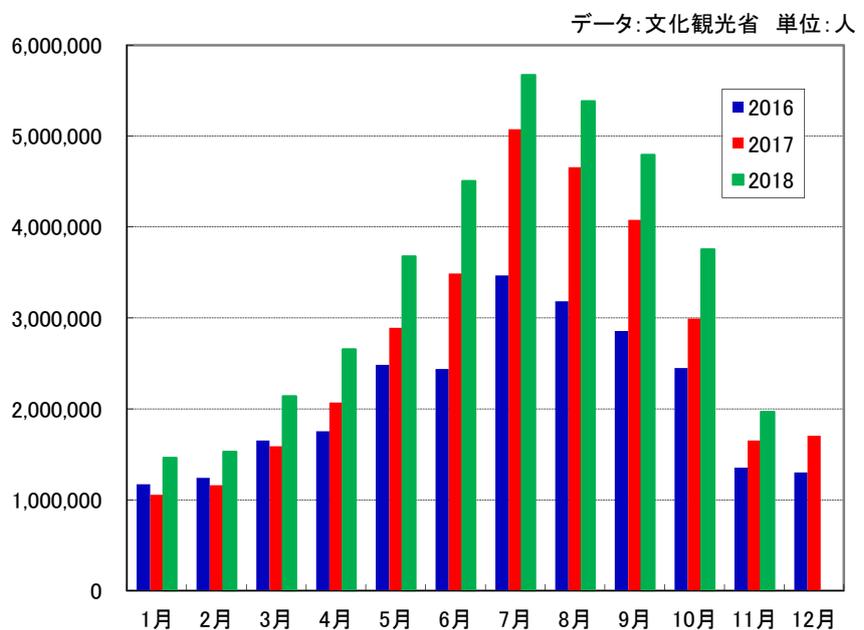
設備稼働率(12月)

(1)2018年12月の設備稼働率は74.1%となり、前月から変わらず。前年同月からは4.9ポイント減少となった。
 (2)製造業の分野別では、コンピュータ・電子・光学製品(85.09%)が最も稼働率が高く、革・革関連製品(55.02%)が最も低い稼働率であった。



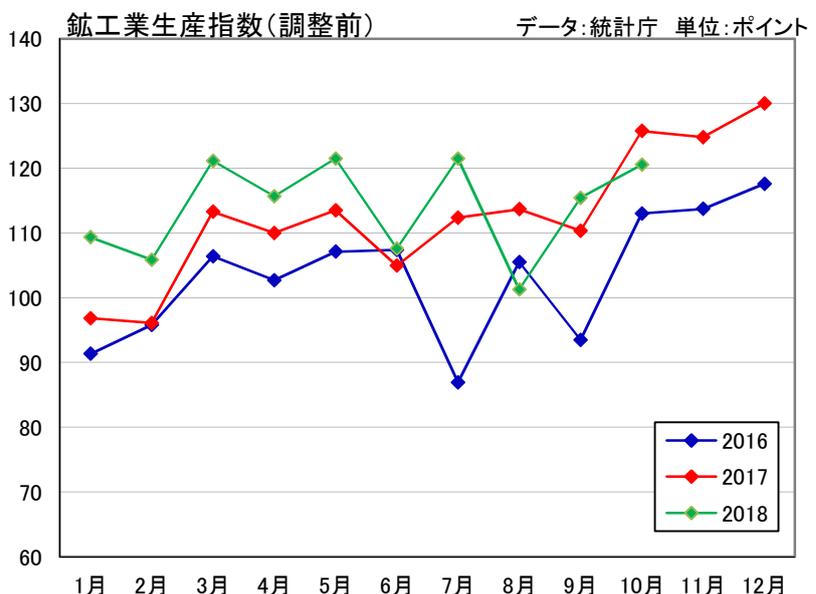
外国人訪問者数(11月)

(1)2018年11月にトルコを訪れた外国人訪問者は196.6万人で、前年同月比18.97%増。
 (2)訪問者数を国別に見るとブルガリアからが最も多く21.2万人で全体の10.8%を占める。以下、ドイツ(17.8万人)、ロシア(14.1万人)となっている。
 (3)なお、日本からの訪問者は7,184人(前年同月比49.95%増)となった。



鉱工業生産指数(10月)

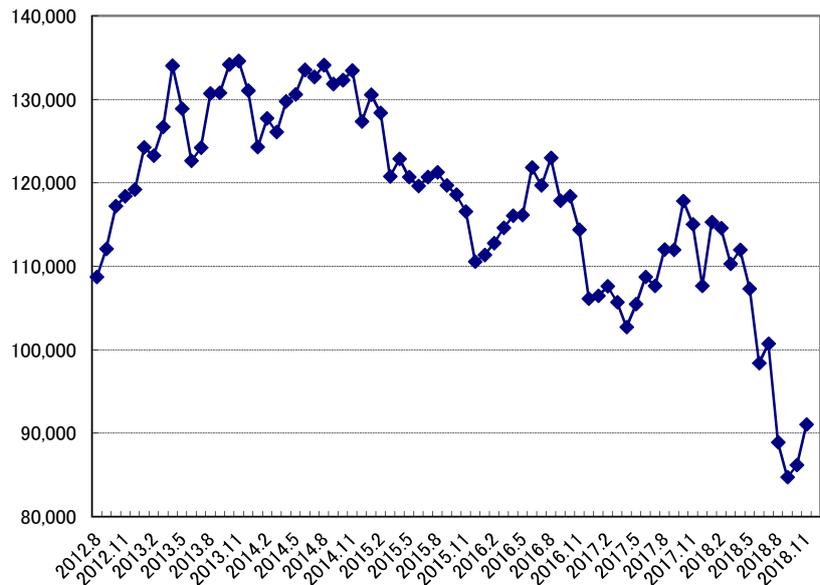
(1)2018年10月期の鉱工業生産指数(調整前)は120.5ポイント(2015年=100)となり、前年同月比(日数調整後)5.7%減、前月比(季節及び日数調整後)1.9%減。
 (2)分野別では、中間財が前月比3.8%減、耐久消費財が同3.4%減。



外貨準備高(11月)

(1)2018年11月末時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は910億ドルとなった。
 (2)前月から48億ドル増加し、4か月ぶりに900億ドルを上回った。

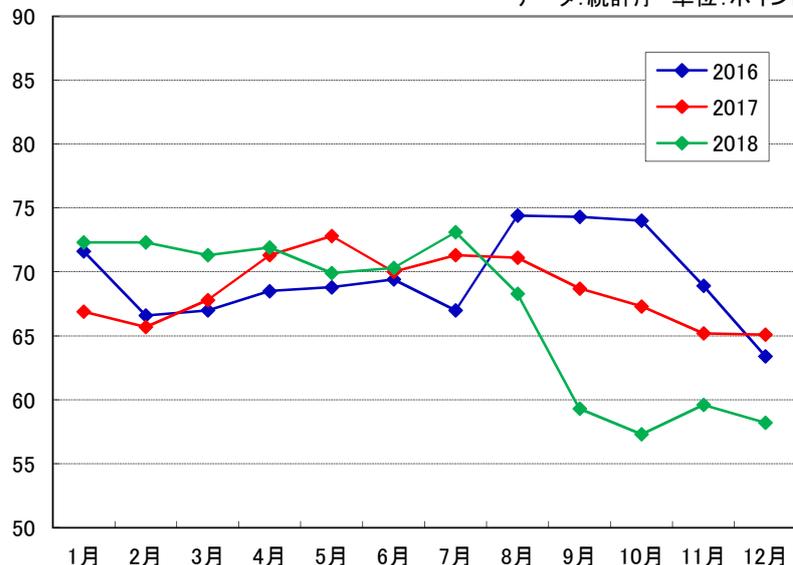
データ:中央銀行 単位:百万ドル



消費者信頼感指数(12月)

(1)2018年12月の消費者信頼感指数は前月から1.4ポイント低下し58.2ポイントと再び悪化した。
 (2)内訳では、失業者数見通しが前月から2.5ポイント低下の60.9ポイント、家計における財政状況見通しが前月から2.2ポイント低下の75.3ポイントとなった。

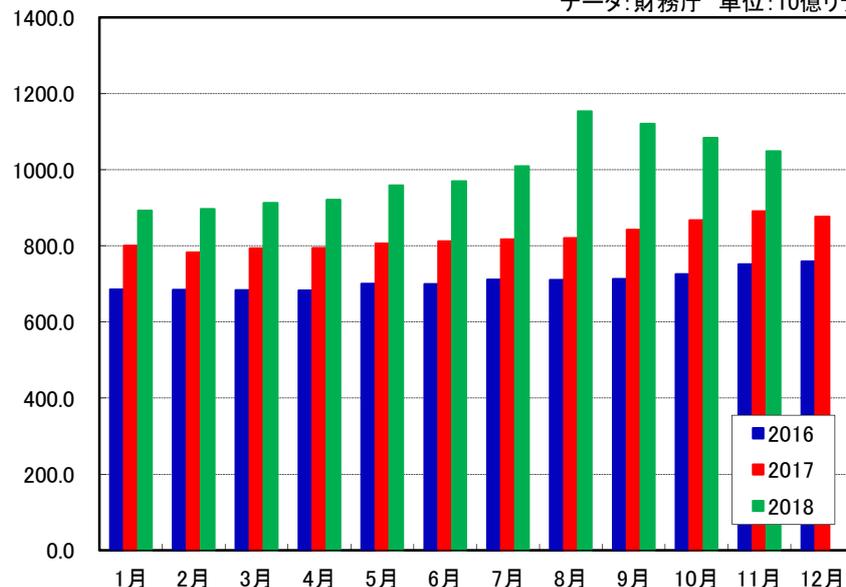
データ:統計庁 単位:ポイント



中央政府債務残高(11月)

(1)2018年11月時点での中央政府債務残高は1兆489億リラとなり、前年同期比17.8%増加した。なお、前月比では3.2%の減少となった。
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に55.2%となっている(2017年末61.1%)。
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は3.0%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。

データ:財務庁 単位:10億リラ



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。